

# 尾関山公園サクラ等植生管理計画

平成 29 年 3 月

三 次 市

## 目 次

1 尾関山公園の桜の概要.....	1
2 尾関山公園の桜の良いところ（強み）.....	2
3 尾関山公園の桜の課題（弱み）.....	3
4 尾関山公園の将来像（平成8年度・尾関山公園整備基本計画）.....	4
5 尾関山公園の桜の目標像.....	4
6 桜の管理の基本方針.....	5
7 尾関山公園の桜・モミジのゾーン別の方針図.....	10
8 尾関山公園の桜・モミジの植栽間隔のイメージ.....	11
9 主な広場のイメージ.....	12
10 毎年必要となる維持管理内容.....	17
11 計画策定の経緯.....	22

# 1 尾関山公園の桜の概要

## 1-1 尾関山公園全体の桜の本数

約 540 本（平成 26 年 2 月時点）

## 1-2 尾関山公園の主な桜の種類

主な桜の種類と、尾関山公園全体の中での割合は下記のとおり。ソメイヨシノが全体の 70% を占め、ソメイヨシノ中心の桜の名所と言える。



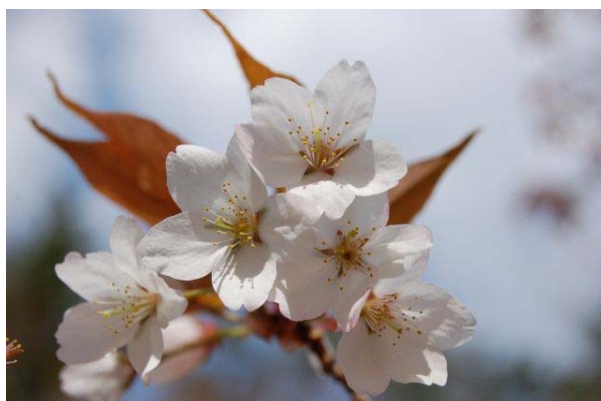
ソメイヨシノ 68%



ヤエザクラ 15%



エドヒガン(シダレザクラ含む) 10%



ヤマザクラ 6%



オオシマザクラ 1%

## 2 尾関山公園の桜の良いところ（強み）

### a.エドヒガン，シダレザクラの大木がある。

尾関山公園の中にはエドヒガン，シダレザクラの大木が随所であり，これだけまとまった本数がある場所は珍しい。エドヒガン，シダレザクラ，ヤマザクラ等の野生種は長寿命であり，全国各地で樹齢数百年の一本桜となっている有名な桜はほとんどがこれらの樹種である。尾関山公園の歴史性や風格を感じさせる桜であり，大きく育てていきたいものである。



### b.江の川の眺望とセットで楽しめる。

三次は三本の川が巴に織りなす水郷であり，三次ならではの桜の風景を演出できる。



### c.忠臣蔵ゆかりの地の桜

浅野内匠頭の正室，瑤泉院（阿久利姫）が生まれ育った地であり，公園内には浅野家下屋敷があったと言われ，浅野神社もある。忠臣蔵ゆかりの歴史性は他には無い資源である。

### d.スギ，カシ等の常緑樹で桜の花が引き立つ。

常緑樹の濃い緑があることで桜の淡い花色が引き立ち美しく見える。巨樹は尾関山の歴史性も感じさせる。

### e.コバノミツバツツジが多い。（遅咲き品種と開花時期が合う）

遅咲きの桜（カスミザクラ，ヤエザクラ等）と開花時期が重なるコバノミツバツツジ（野生種）が非常に多く生育している。濃いピンク色の花色が彩りとして効果的である。

### 3 尾関山公園の桜の課題（弱み）

#### a.ソメイヨシノを中心に樹勢劣化が進行

公園全体の桜の70%を占めるソメイヨシノを中心に、樹勢劣化が顕著であり、枯れ枝も多いため、花の量が減少している。また、桜の成長に伴って枝同士が重なり合い、枝葉が頂部に偏っており、目線の高さに花を咲かせる枝が少ない状況になっている。

#### <樹勢劣化の原因と対策>

##### ア. ソメイヨシノの老木化と管理不足

ソメイヨシノは手間をかければ長く生育できる。手間をかけなければ老木化による衰退が顕著になる。枯れ枝剪定、衰弱した枝の更新剪定、病気に感染した枝（罹病枝）の切除、土壌改良等を行い、ソメイヨシノの樹勢を回復させていく必要がある。

##### イ. 過密による日照不足

桜は日当たりを好む樹木である。しかしながら、桜やモミジの成長により枝同士が重なり合い、日照不足となっていることが樹勢劣化の原因の一つである。また、日照を求めて枝が高くなり、目線の高さに花を咲かせる枝が少なくなっている。桜1本1本がのびのび枝葉を広げられる間隔（8～10m）を確保する必要がある。

##### ウ. 踏圧による土壌の排水不良、通気不良

樹木の健全な生育には土壌の通気性が必要である。また、桜は特に排水性の良い土壌が必要である。しかしながら、現状では踏圧等により土壌が締め固まったり、舗装に覆われたりして、通気・排水不良となっており、このような環境圧や土質に応じた土壌改良や対策が必要である。

##### エ. 土壌のやせ地化

落ち葉等が美観のためきれいに取り除かれ、桜にとっては肥料分の供給がほとんど無い状態である。樹勢を高めるために効果的に肥料分の供給を行っていく必要がある。

##### オ. 病気の蔓延（てんぐす病、がんしゅ病）

てんぐす病、がんしゅ病が多くみられ、枝や幹の衰弱を招くものである。これら病気に感染した枝（罹病枝）を放置すると伝染するため、切除して感染を防止する必要がある。

##### カ. 虫害（コスカシバ）

弱った桜には虫害が発生しやすく、さらなる樹勢劣化を招く。防除が必要である。

#### b.尾関山公園の強みを魅力に生かせていない

「尾関山ならではの」の歴史性、江の川への眺望や変化に富んだ地形、野生の桜の巨樹、コバノミツバツツジ等の桜と同時期に咲く花木など、有望な資源を生かした景観をつくりだしていない。

#### 4 尾関山公園の将来像（平成8年度・尾関山公園整備基本計画）

### 歴史と桜の香る城蹟尾関山公園

他には無い尾関山公園ならではの深い歴史性に磨きをかけ、歴史ある桜の名所として整備活用していく。

#### 5 尾関山公園の桜の目標像

### 桜1本1本が生命力にあふれ、 江の川や町並みと絶景を成す歴史ある桜山

～尾関山ならではの資源（歴史、江の川、地形等）を活かし、数より質で勝負する～

まず、桜1本1本がのびのびと咲き誇り、桜の生命力が感じられる名所としていくことをめざす。

その上で、他の桜名所には無い尾関山ならではの資源（樹齢を重ねた歴史ある桜の巨樹、忠臣蔵ゆかりの地でもある歴史性、江の川と一体となった立地、高低差のある地形など）を生かし、ここでしか見られない桜風景を育てていく。その目標像のもと、計画性を持ち、継続的な育成管理を行っていく。



## 6 桜の管理の基本方針

①将来にわたって1本1本を健全に維持できるよう、桜同士の適切な植栽間隔を確保する。

桜同士の過密による日照不足は樹勢不良の原因となり、上へ上へと伸びるため目線の高さに花が咲かなくなってしまう。しっかりと将来形を考えて、桜同士は当面は8～10m間隔を目標として将来性のあるものを残し、1本1本を健全に維持していく。



石見台の桜(植栽間隔3～4m程度)



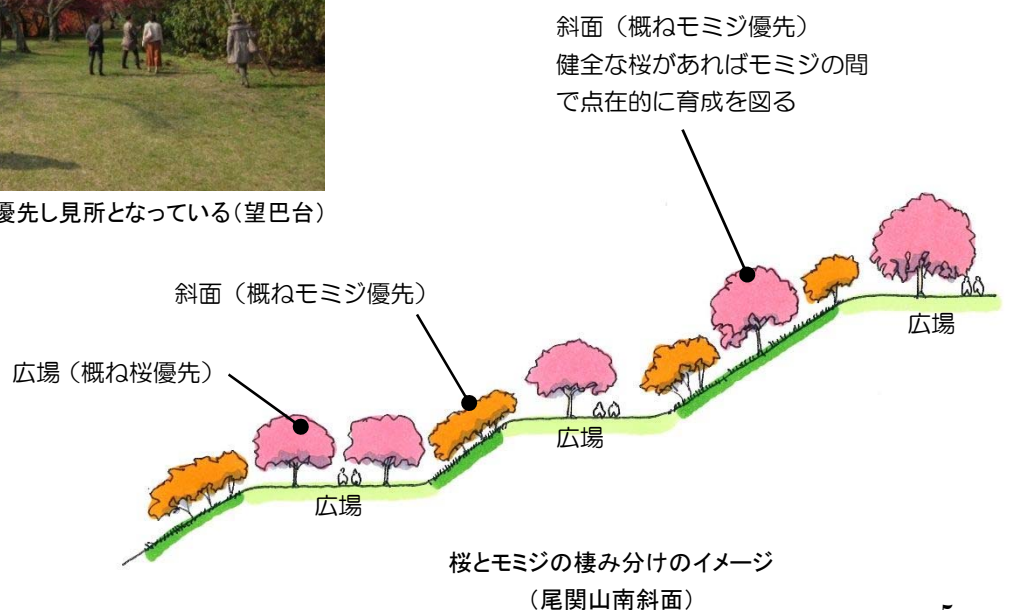
桜本来の樹形(横に枝を広く張る)  
(広島県緑化センター)

②モミジとの棲み分けを計画的に行い、桜と紅葉の名所の両立を図る。

桜と紅葉の名所の両立を図るため、両種が混ざり合いながらも、概ね広場部分は桜、斜面部分はモミジが優先する方針で育成を図り、必要に応じて移植(公園内や市内適地)や伐採を検討する。



斜面部分はモミジが優先し見所となっている(望巴台)



③活かす桜について、十分な育成管理（土壌改良，施肥，剪定等）を行い健全に育成し維持する。

桜の老木化に加え，土壌の通気性や排水性の不良，肥料不足，枯れ枝の放置等が樹勢の劣化に拍車をかけており，活かす桜については継続的な手入れを行うことで，樹齢を重ねた風格ある桜に再生していく。



舗装で覆われた桜(展望台周囲)

舗装は必要最小限とし，土壌の通気性や排水性を高め，定期的な施肥を行うことが望ましい。



てんぐす病感染枝は冬季に剪定して切除が必要

④エドヒガン等の桜の巨樹（1本桜）が要所要所にそびえ立つ桜の名所とする。

樹高15m前後の桜の巨樹となったエドヒガン，シダレザクラが尾関山に点在しており，これだけまとまってある場所は珍しいため，尾関山の歴史を感じさせる桜の巨樹として優先的に育成を図る。



エドヒガンの大木(石見台・樹高約14m)



森湯谷のエドヒガン(庄原市・樹高約22m)



⑤ソメイヨシノを中心とし、その前後でも早咲きや遅咲き品種の満開の桜が少数でも楽しめる場とする。

樹種はソメイヨシノが全体の70%近くを占め最も多いため、必然的にソメイヨシノの満開期間が尾関山の桜のピークとなる。一方で、ソメイヨシノの開花ピークを外れてしまった来訪者でも、ある程度満足してもらえよう、早咲きや遅咲き品種を少量ずつ、公園入口の清心池周りや園路沿い等の来訪者の目につきやすい要所に植栽し、満開の桜が数本でも楽しめるようにする(ただし現状では新植できる場所は限られるため必要に応じて余地をつくる必要がある)。また、樹名板(解説入り)等を設置し、様々な品種の特徴が楽しめる名所とする。



清心池周辺

ソメイヨシノの満開時期以外でも、その時期に満開に咲き誇る桜が数本でも見られれば満足できる。清心池周辺など、要所に早咲きや遅咲きの代表種を育成する。

表. 開花時期分布図(樹種は参考)

時期	3月		4月			
	3週	4週	1週	2週	3週	4週
桜			(参考) 広島市内ソメイヨシノ			
	河津桜		エドヒガン・シダレザクラ・陽光桜	オオシマザクラ	ソメイヨシノ	ヤマザクラ
					サトザクラ	(関山、一葉、天の川、御衣黄等)
低木			シャクナゲツツジ	「吉野」	コバノミツバツツジ	

⑥主役を引き立てる脇役となる桜や低木を育成する。

高木層は桜やモミジ、常緑樹等が過密状態であるため、現状のまま新植できる場所は限られているが、低木層は植栽の余地が残されており、桜と開花時期が重なる低木を育成し、桜の花を引き立てる。また、低木だけでなく、桜についてもソメイヨシノ等に多少前後して開花時期が重なり花色が濃い品種をアクセントで育成することも検討する。



陽光桜(右側・新宿御苑)

エドヒガンと同様に、ソメイヨシノより1週間程度早く咲き、後半にソメイヨシノと開花時期が重なる。濃いピンク色の花はエドヒガンやソメイヨシノの淡い花色の中でアクセントになる。



カスミザクラ(上)とコバノミツバツツジ(下)開花時期が重なり、色合いの組み合わせが美しい。  
出典:「尾関山の桜」(広島県立林業技術センター・平成13年5月)



シャクナゲツツジ「吉野」(例)

ソメイヨシノと開花時期が重なり、濃いピンク色が美しい。

⑦尾関山ならではの歴史が感じられる桜の名所とする。

隣接する鳳源寺には忠臣蔵で有名な大石内蔵助お手植えと伝わるシダレザクラがあり、この子孫を尾関山公園（浅野神社周辺エリア等）で育成し、忠臣蔵の時代からの歴史のつながりを感じられる桜名所とする。（吉舎の大楽寺にシダレザクラの子孫が植栽され樹高30mと言われる大木となっている）



大石内蔵助お手植えのシダレザクラ(鳳源寺)  
忠臣蔵ゆかりの桜



シダレザクラ(三次市吉舎町大楽寺)  
鳳源寺の大石内蔵助お手植えのシダレザクラの子孫を  
植え、樹高30mとも言われる巨樹となっている。

⑧尾関山ならではの江の川の景観と一体となった絶景のある桜の名所とする。

かつての尾関山は現在よりも江の川にむけた視界が開け、江の川と尾関山が一体となった絶景を成していた。この立地や地形は尾関山ならではのものであり、要所要所で江の川への視界を明快に開き（伐採，剪定，維持），絵葉書になるような印象的な景観をつくっていく。



江の川への眺望(上里台・三吉台脇)



江の川・祝橋への眺望(望巴台)  
尾関山公園の古い絵葉書では、望巴台から江の川への  
眺望は今よりもかなり開けていた。

⑨桜土手を再生するとともに、三次町の要所に桜を守り育て、町と一体的な桜の名所をめざす。

尾関山は三次町の城下町の一角を成し、ともに三次の町を形成してきた。三次本通りや文化会館跡地を三次町回遊の拠点としながら、尾関山と三次の町の一体化な回遊性を高め、桜土手とともに、町全体として桜や紅葉を楽しめる展開を図る。具体的には、三次町内の回遊動線上の要所要所で桜やモミジの育成を検討する。

なお、桜土手は、樹齢 80 年程度と推察され、手入れ不足や川土手の嵩上げにより深植え状態となりさらなる衰弱を招いている。河川区域であるため河川管理者と調整を図りながら、枯れ枝剪定や衰弱した枝の切り戻しによる更新剪定、土壌改良等により、限られた根の総量に見合った樹形に再生させる。(まず半数の桜で実施し景観を維持することが考えられる)



川土手の桜

枯れ枝が多く剪定により若い枝に切り替えていくことが必要である。三次町内と尾関山をつなぐ動線としても期待される。



三次文化会館跡地

三次町の回遊性を高める拠点としての役割が期待される。回遊動線の要所に桜やモミジを育成し、三次町全体を桜や紅葉の名所としていくことも考えられる。

⑩尾関山の桜をより深く楽しむために市民が参加できる方法を検討する。

尾関山の桜に興味や関心がある方々が桜をより深く楽しむように、市民が参加できる仕組みを検討する。

専門家による桜の勉強会や、歴史の勉強会、大人も子どもも楽しめる形での桜の手入れ、また、来訪者が尾関山ファンになるような尾関山の桜や歴史のガイドさんの育成など、様々な関わり方が考えられる。



子どもでも参加できる軽作業を中心とした桜の手入れ



参加者へのお土産(間伐した桜の幹になめたけを植菌)

# 7 尾関山公園の桜・モミジのゾーン別の方針図

**浅野の桜ゾーン (浅野神社)**  
 過密となっているソメイヨシノを適当な植栽間隔として育成を図るとともに、鳳源寺の大石内蔵助お手植えとして伝わるシダレザクラの子孫を育成し大木に育てる。

**モミジのゾーン (清心池の背景)**  
 南東向き斜面で比較的日当たりがあり、現状ではモミジが多く育ち紅葉も美しいことから、現状どおり清心池の背景を形成するモミジを優先させる。(日当たりのよい場所で健全な桜があれば点的に育成を図る)

**モミジのゾーン (斜面部分・福島台)**  
 ・北側斜面は桜にとっては日当たりが悪く生育に適さない。現状はヒノキ等常緑樹とモミジが混在しており、常緑樹と紅葉の見せ場としていく。  
 ・南側の斜面部分は桜に比べてモミジが優先して見所を形成しており、それぞれの広場から目線の位置に広がる紅葉の樹冠が楽しめるよう育成する。(日当たりのよい場所で健全な桜があれば点的に育成を図る)

**石見台 (イベント広場), 上里台・三吉台**  
 ・広場を囲うようにエドヒガン、シダレザクラ、ソメイヨシノが生育しており、過密となっているソメイヨシノは適当な植栽間隔をつくり、下枝を大きく広げられるようにする。  
 ・特にシダレザクラは広場の優占種として周囲の樹木を剪定や移植等により空間を広げ大きく雄大に育成を図り、エドヒガンやシダレザクラの巨樹を印象的に楽しめる広場とする。  
 ・桜と競合するモミジは移植等を検討する。

**因幡台, 望巴台**  
 ・広場内の既存の桜で将来性のある株を土壤改良や剪定で再生を図り、1本1本を大きく育て、春の花見広場とする。(競合するモミジは移植等を検討)  
 ・特に望巴台は、名前のとおり江の川の三川合流点への眺望を思い切って開き、江の川の川面のゆらめきを見通しながら桜が楽しめるようにする。  
 ・石見台からの階段園路周辺は開けて日当たりが良いため、樹高の低いヤエザクラを優先的に育成し、少ない本数でも効果的に楽しめるようにする。

**野生の桜ゾーン**  
 ・管理が行いにくい江の川沿いの斜面樹林地は、樹勢の衰えたソメイヨシノやヤエザクラが多く、枯死した株も多い。シラカシ等の既存樹林を保全しながら、手間の少ない野生種(ヤマザクラ、カスミザクラ、エドヒガン等)を点在させ、周辺からの景観形成を図る。  
 ・散策路沿いにコバノミツバツツジが多く、カスミザクラと開花時期が重なることから、特にカスミザクラを重点的に育成を図る。

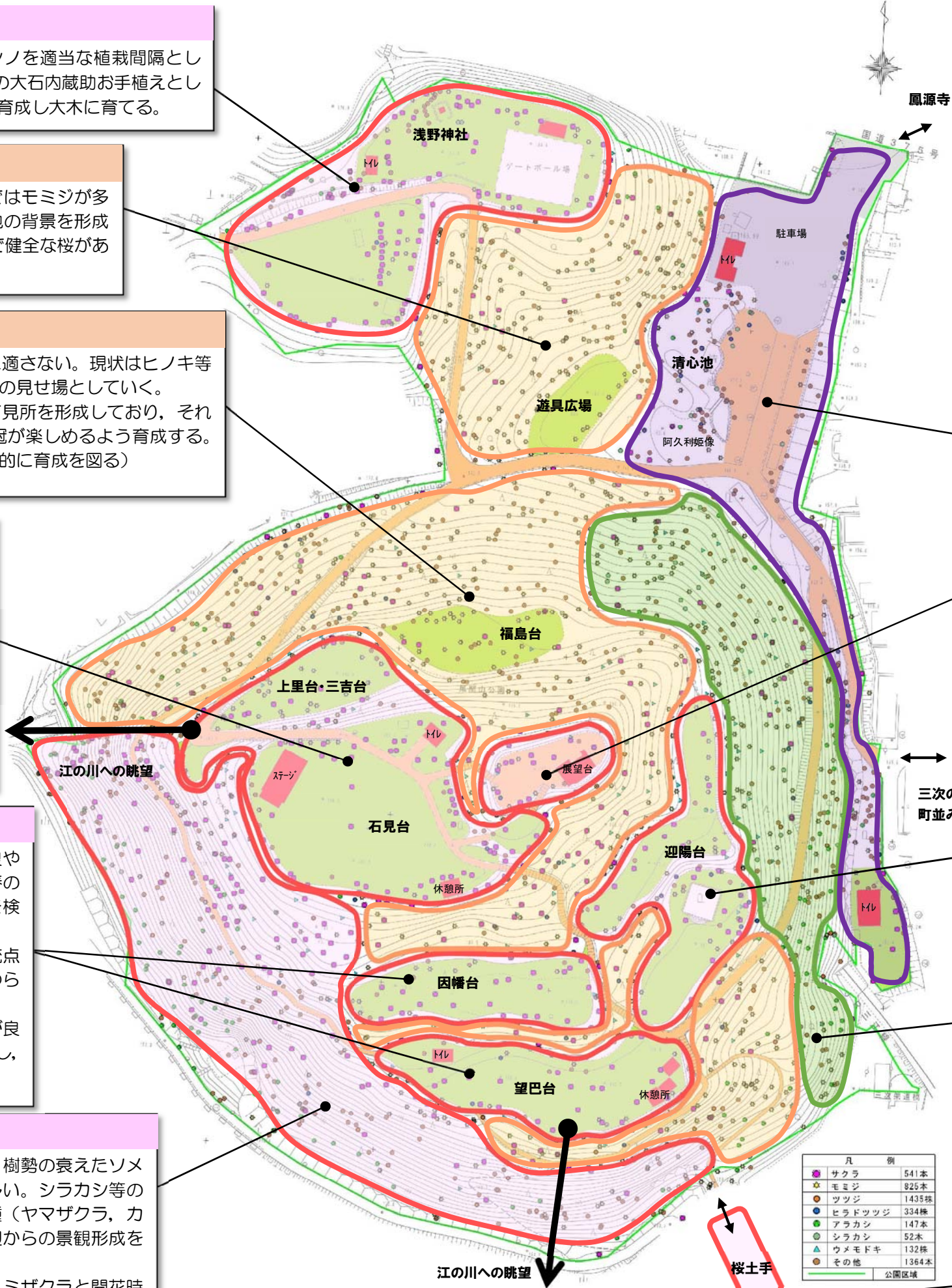


表. 開花時期分布図(樹種は参考)

時期	3月		4月			
	3週	4週	1週	2週	3週	4週
桜	河津桜		(参考)広島市内ソメイヨシノ エドヒガン・シダレザクラ・陽光桜 オオシマザクラ ソメイヨシノ	ヤマザクラ	カスミザクラ	サトザクラ (関山、一葉、天の川、御衣黄等)
低木			シャクナゲツツジ "吉野"	コバノミツバツツジ		

**エントランスゾーン**  
 来訪者を旬の花(紅葉)で迎え入れるゾーン。園内でその時期見られる桜の代表種が満開で楽しめるよう、現存する桜は育成し、無いものは植栽して育成する。

**展望台の平場**  
 ・平場内は現状どおり桜を優先させ、ソメイヨシノの樹勢回復を図る。(舗装を必要最小限に縮小し土壤改良、剪定)  
 ・小スペースで上向きの花を咲かせるサトザクラ「天の川」等の追加植栽も検討する。「天の川」は真上から鑑賞する桜であり、江戸時代に浅野長治の天文観測施設「発蒙閣」があった歴史を語り継ぐ上でも、星空にちなんだ品種名は話題を提供できる。

**迎陽台**  
 ・エドヒガンの巨樹を1本桜として印象的に見せる。  
 ・名前のとおり朝日を受け午前中までは比較的日当たりの良い広場であり、既存の桜で将来性のある株を土壤改良や剪定で再生し、1本1本を大きく育て、春の花見広場とする。  
 ・石見台からの階段園路周辺は開けて日当たりが良いため、樹高の低いヤエザクラを優先的に育成し、少ない本数でも効果的に楽しめるようにする。

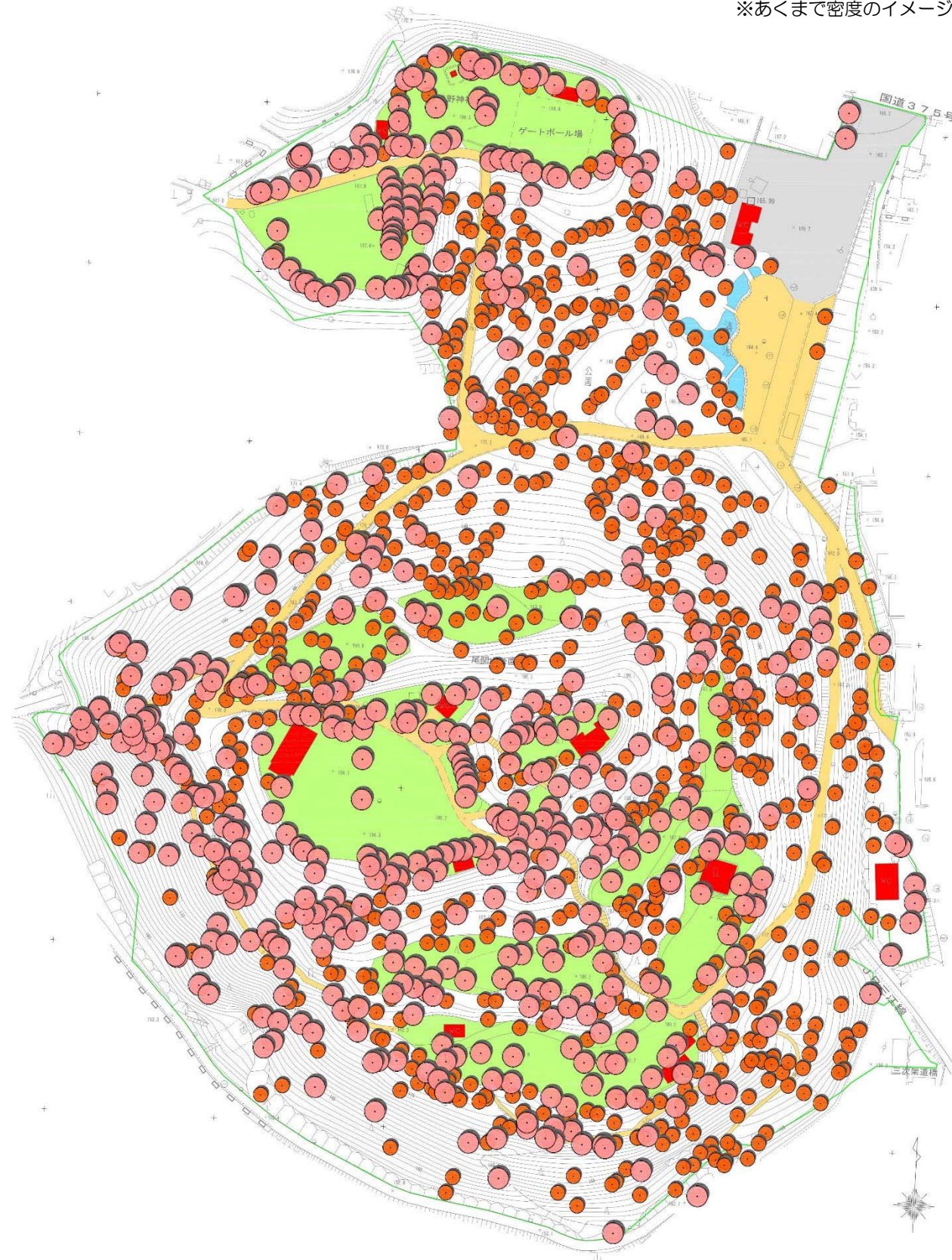
**カシ林**  
 シラカシ林は環境省により日本の植物相の代表的なものとして保護を検討すべき「特定植物群落」に指定されるとともに、桜や紅葉等の「ハレの場」とは対照的な落ち着いた景観を提供し、桜や紅葉を色鮮やかに見せる濃い緑色の背景にもなっている。枯損木の伐採や枯れ枝剪定等で維持する。

**桜土手 (河川区域)**  
 ・樹齢80年と言われ、市民に親しまれてきた歴史ある桜(ソメイヨシノ)である。枯れ枝剪定や衰弱した枝の更新剪定、土壤改良等により、制限された根域に見合った樹形に再生し樹勢回復を図る。(河川管理者と要調整)

## 8 尾関山公園の桜・モミジの植栽間隔のイメージ

※桜は直径6m, モミジは直径4mの円で示している。

※あくまで密度のイメージであり, 1本1本の具体的な計画を示すものではない。



現状

桜やモミジが成長し, 桜同士や, 桜とモミジの枝葉が過密に混み合っている。



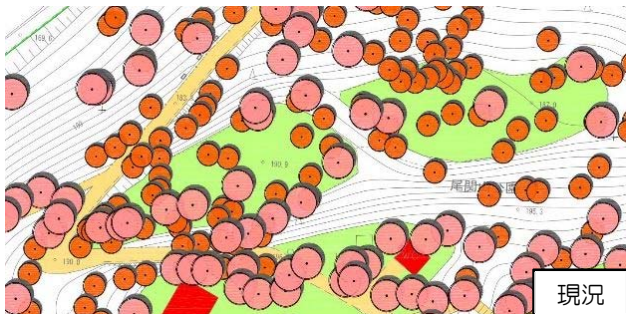
将来イメージ

桜同士は当面8~10m間隔程度を目標として1本1本を大きく育てる。また, 日当たりの良い南側斜面は, 概ね, 広場部分は桜, 斜面部分はモミジを優先させ, 棲み分けを図る。

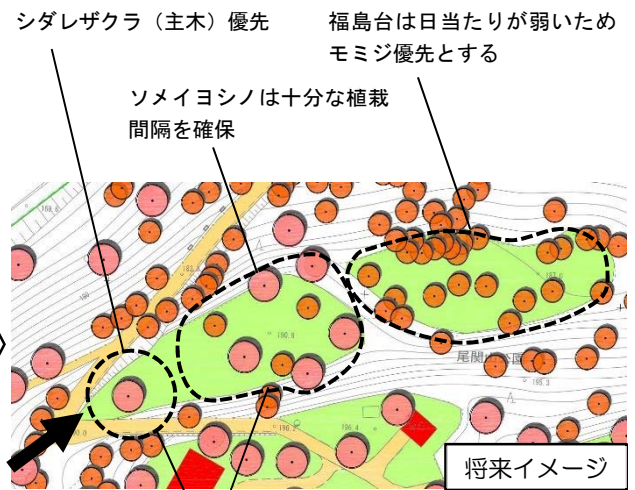
## 9 主な広場のイメージ

### ①上里台・三吉台・福島台

※平面図やスケッチはあくまでイメージであり、1本1本の具体的な計画を示すものではありません。



現況



将来イメージ

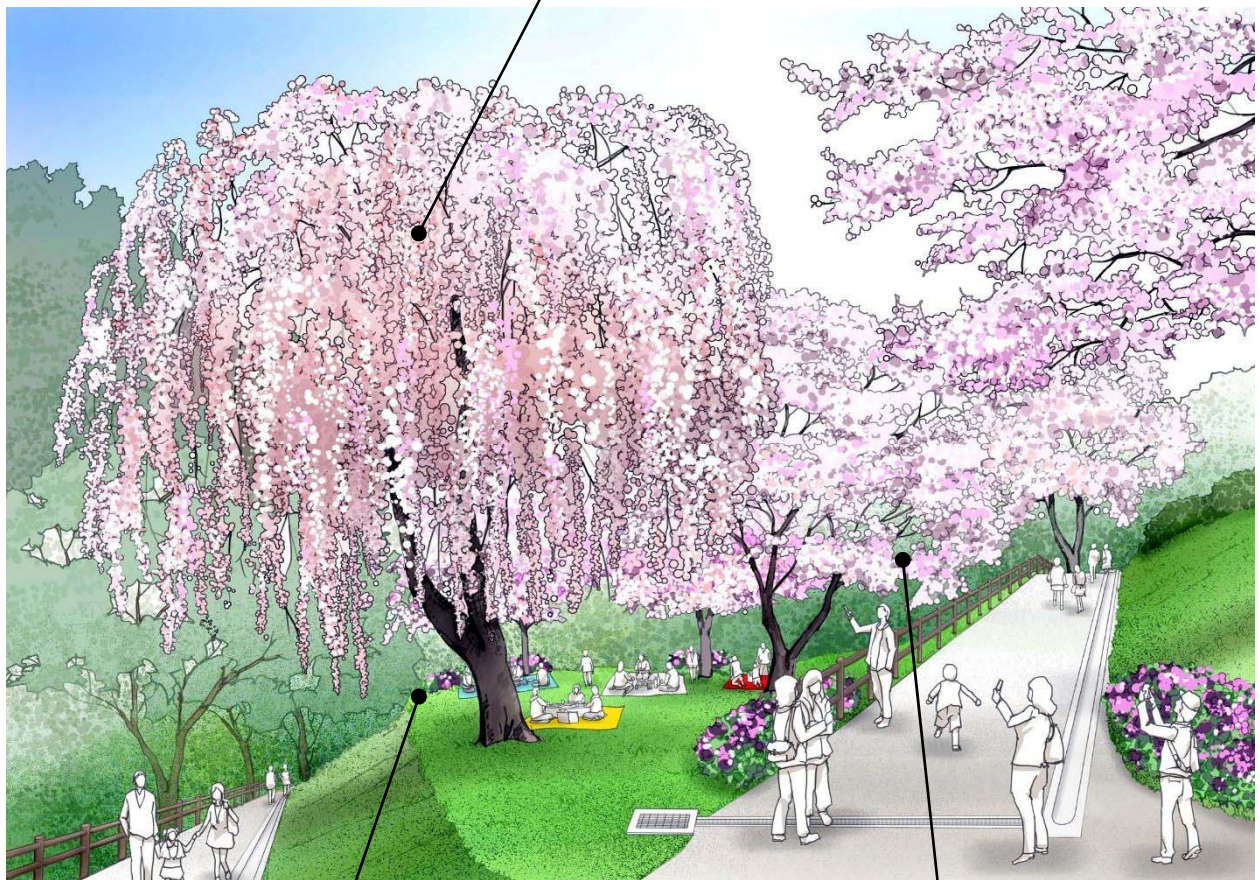
シダレザクラ（主木）優先

福島台は日当たりが弱い  
ためモミジ優先とする

ソメイヨシノは十分な植栽  
間隔を確保

桜と開花時期を合わせた低木の演出  
場所により他の季節の花木（低木）で見所創出

シダレザクラを主木として、桜の最初の見せ場をつくる。  
（シダレザクラ周辺のみもじや常緑樹は剪定や移植により、シダレザクラに十分な広がり確保）

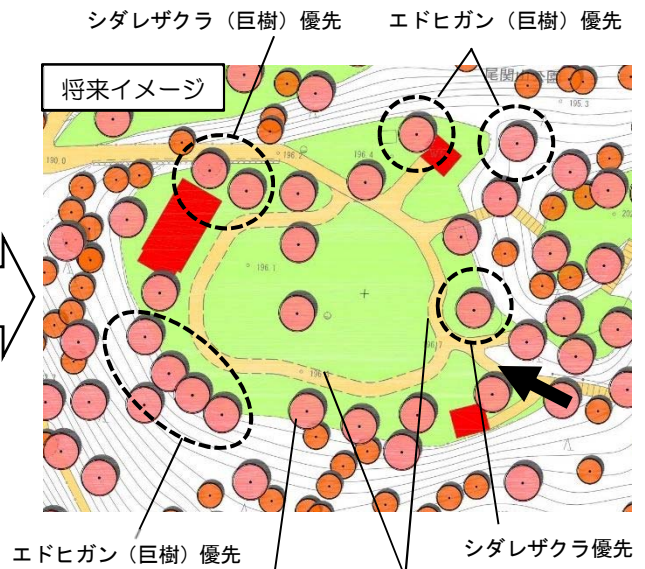
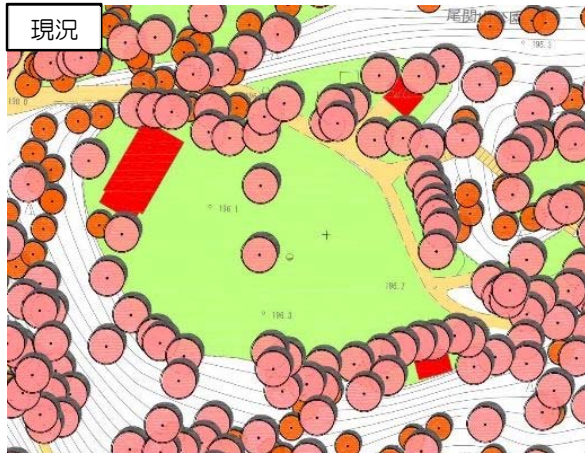


桜と開花時期を合わせた低木の演出（シャクナゲツツジ「吉野」等）

ソメイヨシノは1本1本の間隔をあけて、のびのびと枝を広げ、下枝で目線の高さで花を楽しめるようにする。（広場内は桜を優先し、競合するもみじは公園内外に移植等を検討）

## ②石見台

※平面図やスケッチはあくまでイメージであり、1本1本の具体的な計画を示すものではありません。



広場内のソメイヨシノは十分な植栽間隔を確保

園路整備 (シダレザクラの枝を避ける。管理車両動線の追加)

既存のシダレザクラ、エドヒガンの巨樹1本1本をはっきりと印象的に見せる。



ソメイヨシノは1本1本の間隔をあけて、下枝を大きく広げられるように樹形再生し、花が目線で楽しめるようにする。

既存のシダレザクラを広場の主木として、優先的に周囲の広がりを確保する。枝垂れた枝は切断せず地面すれすれまで育成し、見所をつくる。桜の枝を避けるように園路は位置を変更する。

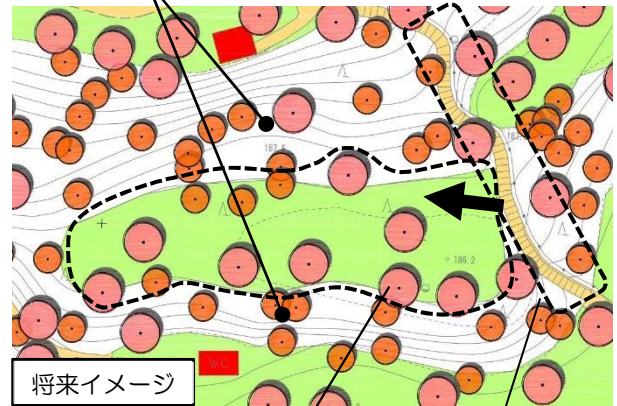
### ③ 因幡台

※平面図やスケッチはあくまでイメージであり、1本1本の具体的な計画を示すものではありません。



現況

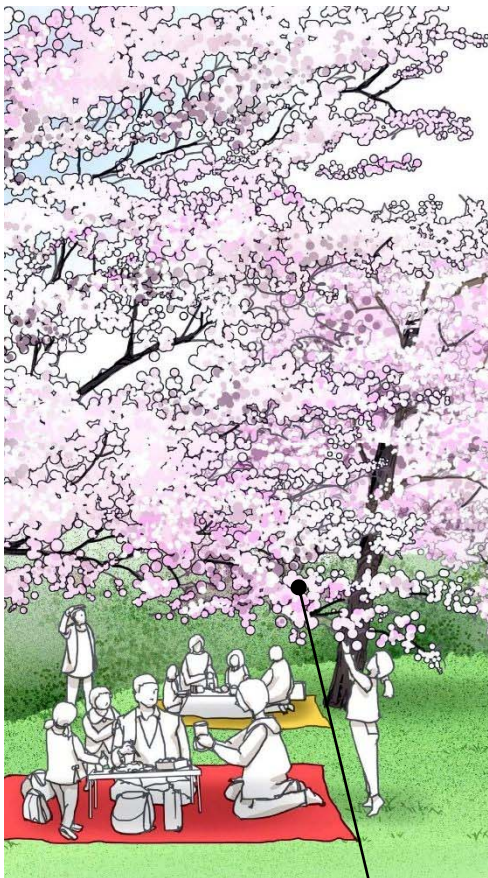
斜面部は概ねモミジ優先  
斜面部は桜と開花時期を合わせた低木の演出  
場所により他の季節の花木（低木）で見所創出



将来イメージ

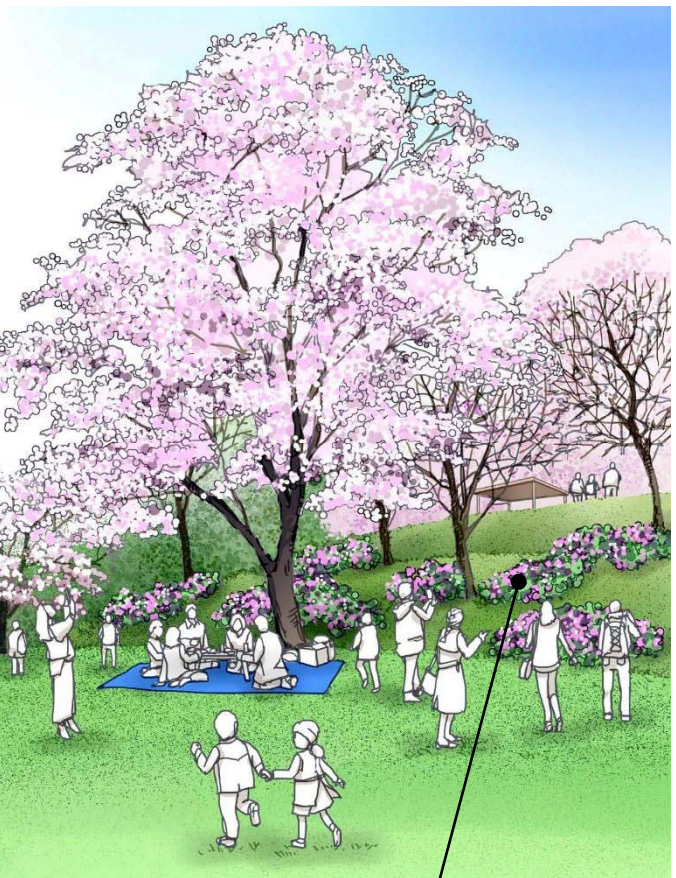
広場内のソメイヨシノは十分な植栽間隔を確保。

園路沿いはヤエザクラ中心



ソメイヨシノは1本1本の間隔をあけて、下枝を大きく広げられるように樹形再生し、お花見広場として花が目線で楽しめるようにする。

(広場内から法肩にかけては桜を優先し、桜と競合するモミジは公園内外に移植等を検討)



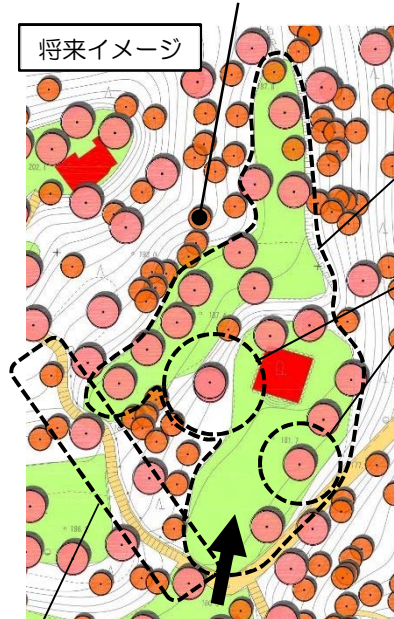
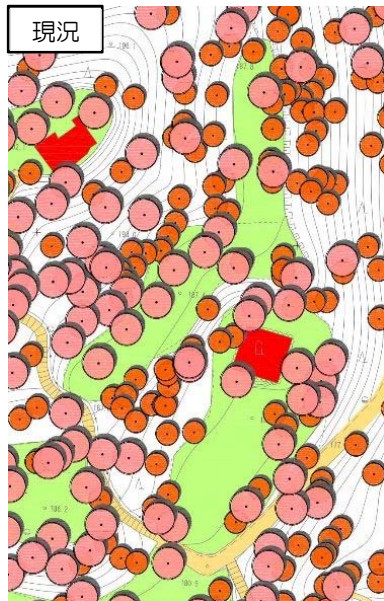
斜面はモミジ優先。(斜面でも良質な桜は残す)  
斜面を活用して桜と開花時期を合わせた低木(シャクナゲツツジ「吉野」等)の演出。



#### ④迎陽台

※平面図やスケッチはあくまでイメージであり、1本1本の具体的な計画を示すものではありません。

斜面部は概ねモミジ優先  
 斜面部は桜と開花時期を合わせた低木の演出  
 場所により他の季節の花木（低木）で見所創出



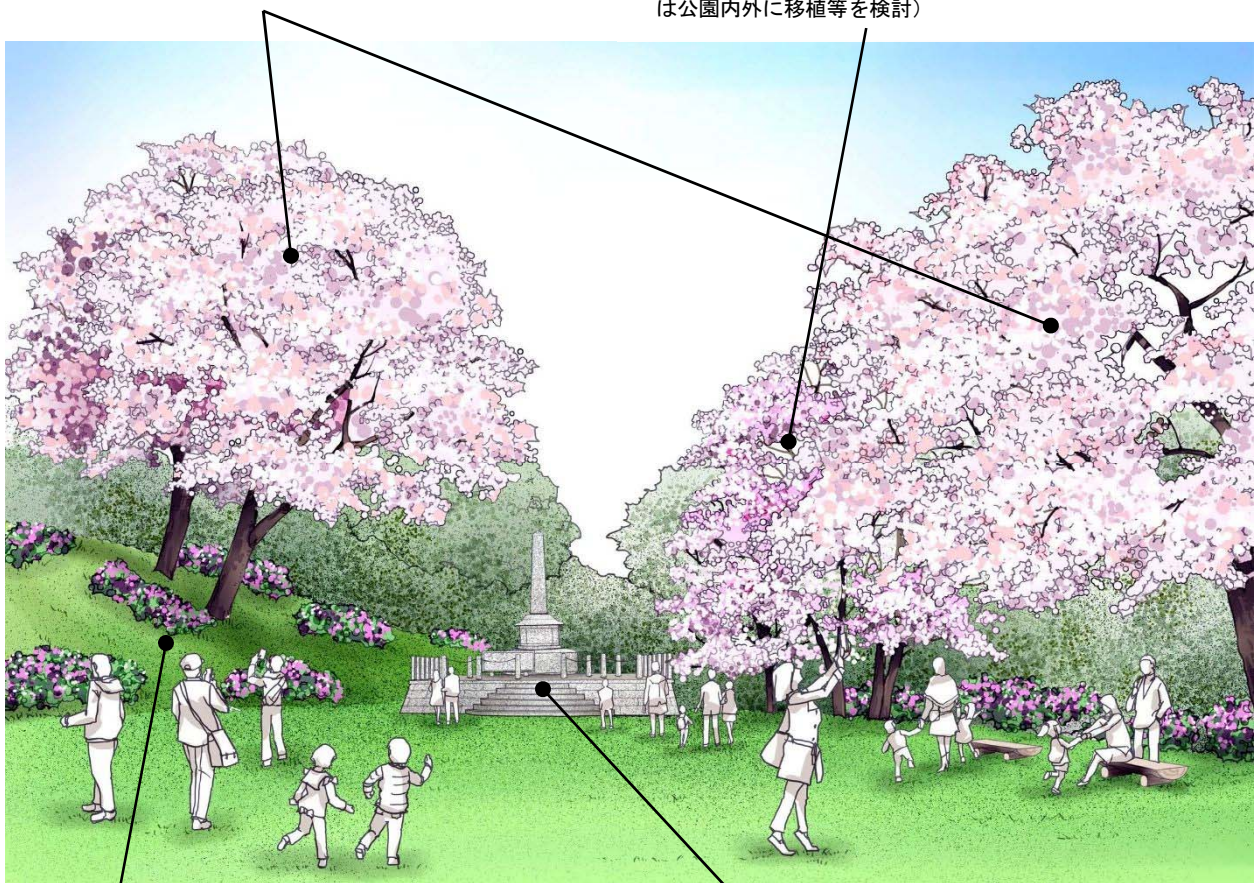
広場内のソメイヨシノは十分な植栽間隔を確保。  
 エドヒガン（巨樹）優先

園路沿いはヤエザクラ中心

エドヒガンの巨樹を1本桜としてはっきりと印象的に見せる。（広場からのエドヒガンへの視界を遮る樹木は公園内外に移植等を検討）

ソメイヨシノは1本1本の間隔をあけて、下枝を大きく広げられるように樹形再生。

（広場内から法肩にかけては桜を優先し、桜と競合するモミジは公園内外に移植等を検討）



エドヒガン巨樹を最優先させながら、斜面部は基本的にモミジを優先。

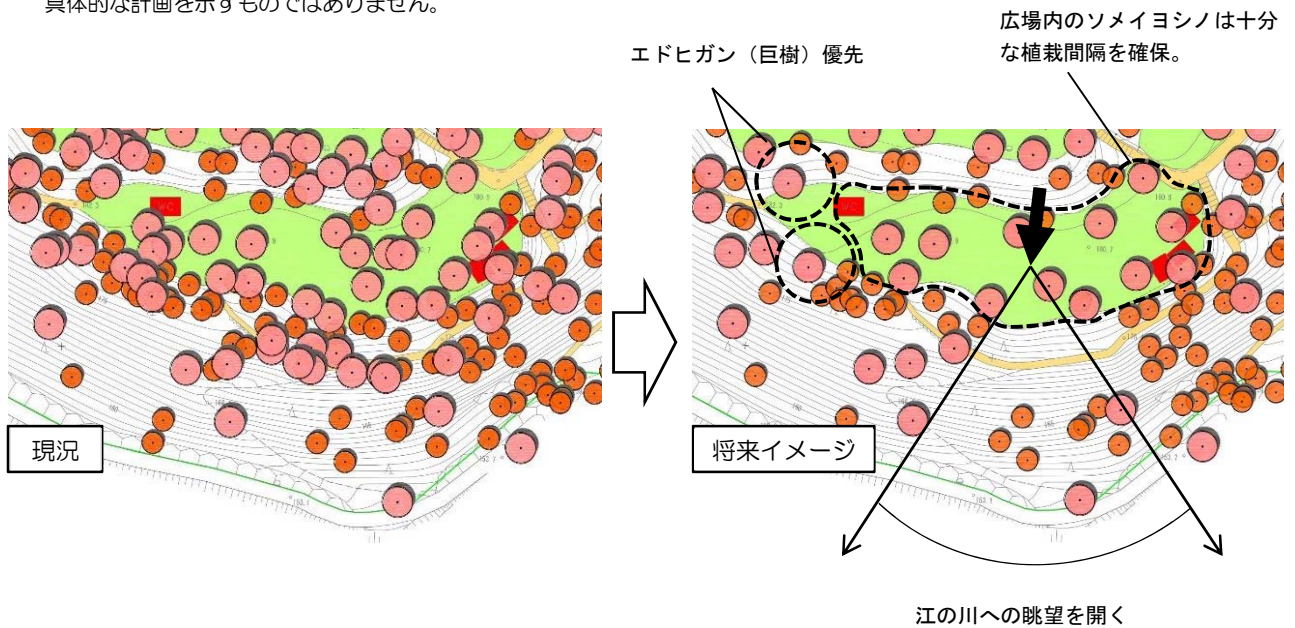
斜面を活用して桜と開花時期を合わせた低木（シャクナゲツツジ「吉野」等）の演出。

歴史資産でもある忠魂碑をすっきり見せる。

（手で視界を遮る樹木は公園内外に移植等を検討）

## ⑤望巴台

※平面図やスケッチはあくまでイメージであり、1本1本の具体的な計画を示すものではありません。



ソメイヨシノは密度を落とし、下枝を大きく広げられるように樹形再生。  
 (広場内から法肩にかけては桜を優先し、桜と競合するモミジは公園内外に移植等を検討)



桜土手をすっきりと見せ、桜土手への散策の誘導を図る。  
 (桜土手の衰弱した枝の更新剪定や土壌改良等の樹勢回復措置を実施)

巴を成す江の川への視界を思い切って開く。  
 (尾関山公園の一番の景観スポットの復活)  
 見通しを遮蔽する樹木は公園内外に移植等を検討。

## 10 毎年必要となる維持管理内容

桜の維持管理活動は、桜へのダメージを最小限にするため、桜の休眠期である冬季（12月～3月）の期間で実施する。ここでは、毎年必要となる維持管理内容について列記する。

### a. 勉強会

参加者が桜の性質を楽しく学び、桜の管理作業の意味や必要性を理解できるようにするため、毎年の管理作業に合わせて勉強会（さくら講座）を開催することが望ましい。

勉強会があることで、参加の動機付けにもなり、参加意欲の向上にもつながることが期待できる。



専門家による桜講座

### b. 毎年の作業の方針設定

一度に大掛かりな間伐や剪定を行うと、そのエリアは翌年の桜の花見がほとんどできない状態になってしまう。尾関山公園は毎年大勢の方々が来られる桜の名所であることから、桜の名所としての見栄えを維持しながら作業を行うことが必要である。そのためには、毎年少しずつ、段階的に手入れを行っていくことが必要である。

そのような毎年の作業方針は、桜の専門家が継続的に監修し、前年の作業の結果を観察して検証しながら、毎年設定していく必要がある。



専門家による現地での方針設定

### c.間伐（あるいは移植）

桜の1本1本が健全にのびのびと枝を伸ばし、目線の高さで花を楽しめるよう低い位置まで下枝を育成するためには、桜の適した植栽間隔（ソメイヨシノであれば8～10m程度以上）を確保する必要がある。桜の名所であることから、毎年の花見の見栄えを維持しながら、段階的に間伐を行っていく必要がある。

残して育成する木、間伐する木の見極めは、経験ある専門家が毎年 of 生育状況を見ながら慎重に検討する必要がある、専門家による監修を受けて、長い計画性を持って取り組んでいく必要がある。



市民参加による桜(ソメイヨシノ)の間伐事例

### d.剪定

老木化して衰弱したソメイヨシノの樹勢を回復させるためには、剪定により若く樹勢の強い枝への切返しを行い、枝を更新させていく必要がある。これは1本1本の桜の生育状況や周辺樹木等との関係性を考えながら専門家が慎重に検討する必要がある。また、高所の剪定や、太枝の剪定は専門業者による実施が必要である。

また、尾関山公園で蔓延しているてんぐす病、がんしゅ病等の罹病枝（りびょうし）の切除が必要である。高所作業車でないと困難な場所等の高所は専門業者での実施、高枝切狭や高枝のこぎり等が届く範囲は市民参加でも対応可能である。



専門業者による太枝や高所の剪定



市民による罹病枝、枯れ枝等の切除(高枝のこぎり)

#### e. 土壌改良

計画地の土壌は長年の踏圧等により締め固まっており、土壌の通気性、排水性を改善させる必要がある。そのために土壌中に圧縮空気を送り込む「エアレーション」等は専門業者でないと困難である。一方で、桜の周囲への「施肥（せひ）」（堆肥等有機質や肥料等を土壌に施すこと）は、市民参加でも実施しやすい作業である（クワで穴を掘り、専門家により決められた分量で堆肥と肥料を埋めていく）。



市民参加による桜の施肥作業



クワと肥料袋

#### f. 発生材の集積運搬

間伐や剪定により発生する幹や枝を集め、所定の場所まで運搬する作業であり、間伐や剪定作業を行う人の数倍の人手が必要となる重要な作業である。市民参加で実施しやすい作業である。車両運搬や処分は専門業者での対応となる。



市民参加による桜の剪定枝の集積・運搬



市民参加による桜の剪定枝の集積・運搬

## g.防除

コスカシバ（幹の傷等に産卵され幼虫が幹を食害し胴枯れ病等を引き起こす）をはじめとした害虫や病気の発生が見られた場合、被害の拡大を防ぐために防除が必要となる。防除には薬剤の塗布や散布、患部の切除等がある。



コスカシバの食害跡(衰弱した桜が被害を受けやすい)



コスカシバの食害跡(拡大)

## h.新規植栽（高木，低木）

桜の名所としての魅力を高めるため、桜や、桜と同時期に咲く花木（高木，低木）を植栽する。ただし、高木については、現状では新植できる場所は限られるため、計画性を持って十分に枝を広げられる余地をつくった上で植栽する必要がある。また、植栽する前に、植栽場所の土壌の性質を把握し、健全な生育に必要な土壌改良を十分に行うことが重要である。

## i.楽しく継続的に活動するための工夫

楽しく継続的に活動するための工夫として、昼食等、食事や談笑の楽しさを提供することは有効である。市民参加による桜の管理活動では、例えば、お昼におむすびや汁物（特に寒い冬季は暖かい汁物はありがたい）の提供を行ったり、作業で発生した剪定枝（花芽が付いた枝を持ち帰り水に漬けておくと室内でも花が咲く）や伐採した幹や太枝を使ったなめたけ菌植菌木を参加のお土産に配布する等の工夫等も大切である。



参加者に配布される桜の剪定枝(花芽付き)



参加者に配布されるなめたけ菌植菌木(桜の幹・太枝)

表. 毎年必要となる作業内容のうち市民参加で実施しやすい作業内容

作業内容	専門家・専門業者 で行うべき作業 (桜の見極め, 高所作業等)	市民サポーターで 実施しやすい作業 (軽作業)
勉強会 (市民講座)	○	
毎年の作業の方針設定・計画	○	
間伐 (あるいは移植)	○	
剪定 (樹勢回復のための若い枝への の切返し)	○	
剪定 (罹病枝, 枯れ枝等)	○ 高所作業車	○ 高枝切狭等が届く範囲
土壌改良 (通気改善のエアレーション 等)	○※1	
土壌改良 (施肥・有機質補てん)		○※1
発生材の集積, 運搬	○ 車両運搬・処分	○ 人力小運搬
防除 (虫害抑制)	○ 薬剤散布を行う場合	○ フェロモントラップ設置等
新規植栽 (高木※2, 低木)	○	○
発生材の活用※3		○ <b>【例】</b> ・花芽のついた剪定枝を参加者に配布 ・間伐幹や太枝になめたけを植菌して参加者に配布
食事の提供※3		○ 昼食 (おむすび, 汁物等)

※1: エアレーションと施肥・有機質補てん作業は一体的に作業を行うと効率的である。

※2: 現状では高木を植栽できる場所は限られる。(植栽する場合は計画性を持った植栽余地づくりが必要)

※3: 必須項目ではなく, 楽しく継続的に活動するための工夫の例

## 11 計画策定の経緯

本計画の策定にあたっては、一般公募の市民参加による「尾関山公園の桜再生ワークショップ」を開催し、尾関山公園の現状と課題を踏まえ、市民からの意見を反映させて作成したものである。

### a. 「尾関山公園の桜再生ワークショップ」の目的

- ・桜の特性を知る。
- ・尾関山公園の桜の現状を知る。
- ・尾関山公園の桜の将来像を考える。

### b. 開催概要

日時・場所	内容	参加者
第1回 <日時> 平成29年1月31日(火) 14:00~16:30 <会場> 三次コミュニティセンター	「尾関山公園の桜の現状を知ろう！」 ・講演 桜の特性について 尾関山公園の桜の現状 ・現地調査 現状を現地で確認 ・グループワーク 尾関山ならではの桜の魅力 桜やモミジとの競合 桜の樹種はどうしていく	20人
第2回 <日時> 平成29年2月16日(木) 14:00~16:30 <会場> 三次コミュニティセンター	「尾関山公園の桜の将来像を考えよう！」 ・桜の植生管理計画案の説明 ・グループワーク 尾関山の桜の目標像、基本方針 ・全体のまとめ	14人

